

# 夜間中学題材の映画「こんばんはⅡ」

# 「学ぶこと」見つめた

2008年度のキネマ旬報文化映画ベスト・テン1位などの賞に輝いた映画「こんばんは」。夜間中学校を見つめた「学ぶこと」の意味を考えた森康行監督(88)が、続編の「こんばんはⅡ」の製作に取り組んでいる。作業は大詰めを迎え、間もなく完成する。「今度は自主夜間中学にも目を向け、外国人も含め、学びを求める多様な人々にスポットライトを当てた」と森監督。前作の基調だった「生きるために学ぶことの意味」はさらに深まった。

(岸鉄夫)

## 22日に完成記念上映会

「こんばんは」は03年に完成し、これまで全国で約1500回上映され、約15万人が観賞。東京都墨田区立文花中学校夜間学級にカメラを据え、そこに通う人々を見つめた。

■しんちゃんが話した  
17、82歳まで、8カ国80人が主役だった。プレス工場を営む男性(1)は小学校だけしか出ておらず、兄の葬式で用事が読めなかつた悔しさから入学。ものづくりの職人男性(75)は小学校3年で働きに出たため、学び直したいと通う。

人生のベテラン2人は、親以外とは口を利けない少年しんちゃん

やんに優しく寄り添った。ある口、しんちゃんが口を開いた。

前作「こんばんは」について、森監督は「撮影を進める中で、スタッフたちが「こんな学校で学んでいたらなあ」と言っていた。そこには競争や効率主義はなかった。誰でも分かるところから学び、疑問が湧けば次の問いへと向かい、学びを自分の生きる力とする風景が広がっていた」と振り返る。

■学びは生きる力  
「こんばんはⅡ」は、文花中夜間学級の定点観測だった前作とは違い視野を広げた。撮影は今年9月に開始し、千葉県柏市と



前列右から「こんばんは」に出演した教師の見城慶和さん、森康行監督、埼玉に夜間中学を作る会代表の野川藤秋さんら「こんばんはⅡ」の関係者—8月15日、東京都荒川区町屋

松戸市で市民が運営する自主夜間中学、大阪市立天王寺中学の夜間学級の3カ所にカメラを持ち込んだ。ほかに公立夜間中学や自主夜間中学の卒業生や在校生のインタビューを盛り込んだ。

間中学で再び学び始めた若者。貧困の中で学びを求め続け、ようやく夜間中学にたどり着いた女性。新しい学びを求める外国人の若者たちにもスポットライトを当てた。

森監督は「年齢も国籍も人生も違うさまざまな人々が、学び

を求めている姿に「心」を合わせた。次から次へ社会の新しい問題を抱える夜間中学の本当の姿をぜひ見て、何かを感じてほしい」と話している。

「こんばんはⅡ」の完成記念上映会が22日午後6時半(開場同6時)から、エデューカス東京7階ホール(東京都千代田区三番町12の1)で開催され、森監督ら関係者があいさつする。主催は夜間中学校と教育を語る会。参加費無料。申し込み不要。問い合わせは、同会の庄司匠さん(03)080-5913・8287へ。

## 公立の夜間学級 川口に20年開校

全国夜間中学校研究会によると、公立夜間中学は現在、8都府県25市に31校あり、生徒数は計約1700人。市民が独自に取組む自主夜間中学は全国に27校で生徒数は計約700人。2016年に義務教育機会確保法が成立し、政府は全都道府県に1校の開校を要望し、20年春に公立の夜間学級が新たに川口市と千葉県松戸市で開校する。

一方、自主夜間中学は、埼玉県では唯一「川口自主夜間中学校」があり、生徒数70人で、火曜と金曜の夜に開いている。

(注)開校は1989年4月とす。(6月訂正記事掲載)